

# 令和8年産サツマイモ基腐病の防除暦

持ち込まない(健全苗の確保)、増やさない(発病株の除去、適期防除)、残さない(残渣の分解促進)を徹底しましょう！

月	育苗	本ほ								
1月	<div>育苗・苗消毒</div> <div>育苗管理と採苗</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>発病株を見つけたら速やかに種いもごと除去。</li> <li>地際部から5cm以上離して苗切り。</li> <li>採苗時のハサミはこまめに消毒。</li> <li>苗床では靴の履き替え、または靴底消毒。</li> </ul> <div>苗消毒</div> <div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>採苗したら苗消毒を（※）</li> <li>薬剤はベンレート水和剤またはベンレートT水和剤20を使用</li> </ul> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>苗の上部まで浸漬</li> <li>調整後の薬剤は、日光や汚れなどで急速に分解するため、1日で使い切る</li> </ul>  </div>	<div>ほ場準備</div> <div>排水対策</div> <p>ほ場に水が溜まらないように枕畝は途中で切り、明きよはほ場外につなげるなど排水対策を徹底する。</p> <div>土壌消毒</div> <p>適度な土壌水分と地温を確保し、各薬剤の使用方法に従い土壌消毒を行う。</p> <div>植付け後の管理</div> <div>発病株の抜取り</div> <p>ほ場を観察して、早期発見に努め、発病株は抜取り、薬剤散布を開始する。</p> <div>薬剤散布</div> <p>薬剤は株元にかかるように丁寧に散布する。以下に防除体系の例を3つ示す。</p> <div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>フロンサイドSCは株元にしっかりかけるとともに、通路を含めて圃場全体に散布することで、通路の土壌からの感染を予防する効果も期待できる（濃度に注意）。なお、体質によって、かぶれることがあるので、必要な安全装備をしてください。</li> <li>ストロビルリン系の薬剤は耐性菌が発生しやすいため、土壌消毒でフントフロアブル25を使用した場合には、同系統のアミスター20フロアブルは使用しない。</li> </ul>								
2月										
3月										
4月										
5月										
6月	<div>片付け・残渣処理</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>育苗が終了したら、できる限り残渣を持ち出す。</li> <li>地温が高い時期に複数回耕転し、堆肥や分解資材を活用し、残渣分解を促す。</li> <li>トラクターの走行は低速で、ロータリーは高速回転とし、残渣を砕くことを意識する。</li> </ul> 	<div>増やさない対策</div>								
7月										
8月	<div>苗床の土壌消毒</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤による土壌消毒は、適度な土壌水分と地温を確保し、処理後はビニル等で被覆する。</li> <li>土壌還元消毒を実施する場合は、農研機構の「サツマイモ基腐病を防除する苗床の土壌還元消毒技術標準作業手順書」を参考に実施する。</li> </ul>									
9月	<div>種いもの消毒</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>健全ほ場から採取した種いもを使用。</li> <li>以下の手順で種いもの消毒を実施（※）。</li> </ul> <div>  <p>なり首・尾部除去 種芋消毒</p> </div> <div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種芋消毒剤</th><th>病害虫名</th><th>濃度</th><th>使用方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トップジンM水和剤</td><td>基腐病</td><td>200～500倍</td><td>30分間採苗用種いも浸漬</td></tr> </tbody> </table> </div>	種芋消毒剤	病害虫名	濃度	使用方法	トップジンM水和剤	基腐病	200～500倍	30分間採苗用種いも浸漬	
種芋消毒剤	病害虫名	濃度	使用方法							
トップジンM水和剤	基腐病	200～500倍	30分間採苗用種いも浸漬							
10月		<div>収穫と片付け</div> <div>早期収穫</div> <p>在ほ期間が長いほど発病が進むので、発病が見られたほ場ではできる限り早期に収穫する。</p> <div>残渣処理</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>罹病残渣は翌年の伝染源になるため、できる限りほ場外へ持ち出す。</li> <li>残渣分解を促すため、堆肥や分解資材を施用し、月に1～2回程度、耕転する。</li> <li>残渣は新鮮なほど分解が進みやすく、分解には地温と土壌水分が必要なので、収穫後、速やかに耕転する。</li> <li>被害が激しかったほ場では、抵抗性のある品種を導入するか、品目転換を行う。</li> </ul>								
11月										
12月										

※茎根腐細菌病の発生が懸念される場合は県版マニュアルを参照。

※茎根腐細菌病の発生が懸念される場合は県版マニュアルを参照。